

Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.10 No.12 December 2009

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

12

CONTENTS

- ・ 巻頭言
新エネルギーの誕生と地方行政
／井上昭夫 1
- ・ 天理教教理史断章 (48)
梅村文書①
／安井幹夫 2
- ・ 天理教文献余話 (最終回)
天理教文献史の時代区分と要点
／早田一郎 4
- ・ 日本語教育の歴史、その光と陰 (最終回)
歴史認識の共有より歴史資料の共有を
／前田 均 5
- ・ 布教伝道と“土着化” (最終回)
布教とは何か②
／堀内みどり 6
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (12)
非宗教者との宗教者の対話と協働の試み
／金子 昭 7
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の民族誌学 (9)
ハワイ人の主権回復運動③
／井上昭洋 8
- ・ 世界平和のための宗教対話 (17)
優しい言葉を使おう
／山口英雄 9
- ・ 天理異文化伝道の諸相 (66)
コンゴ伝道に見る異文化接触 [32]
／森 洋明 10
- ・ 第8回天理スポーツ・ギャラリー展報告 (10)
ドッジボール・競技ダンス
／難波真理 11
- ・ English Summary 13
- ・ おやさと研究所ニュース 14

巻頭言

新エネルギーの誕生と地方行政

おやさと研究所長 井上昭夫 Akio Inoue

鳩山由紀夫首相が、国連演説で温暖化ガスの大幅削減を提示し、グローバルな話題を提供している。潘基文国連事務総長は「今こそ行動の時だ。歴史はこれ以上の好機を与えてくれないだろう」と、先進国や途上国に取り組みの推進を力強く呼びかけた。しかし、国内では2020年に1990年比「25%」という削減目標は、高すぎるハードルだとして連合会長や電力総連会からも批判を浴びている。目標値を達成するためには、住宅の断熱化など各家庭でほとんど強制に近い対策が必要になる。国際的協調に異論はないが、自国の国益を後回しにすることは全く別物という意味の批判である。削減には努力はするが、日本の省エネ技術を生かし、途上国での排出量削減にまず貢献すべきだというわけだ。

しかし、困難な目標への挑戦は、人間と自然・エネルギーの関わりを大きく変える。長い間、近代化を支えてきた化石燃料の世紀が終焉し、太陽光、風力、バイオマスなど再生可能な新エネルギーの世紀が到来した。石炭や石油、そしていつまでも原子力に依存する産業は衰退するだろう。人類はその生存を賭け、新エネルギーの世紀に向けて産業構造の転換を迫られている。悲観することはない、チェンジは常にチャンスでもある。「鳩山イニシアチブ」構想のスピーチライターとも言われる福山哲郎・外務副大臣は「(温暖化ガスを)多く排出する企業に配慮しないとは言わないが、削減によって起こる産業構造の転換、新産業の創造は、自社のビジネスチャンスになり得る。大胆な切り替えができるのが、政権交代ということだ」と説明し、温暖化ガスの削減を、単なる環境対策やエネルギー政策にとどめるつもりはないと答える(『日経ビジネス』09/10/5)。

政権交代後、八ツ場ダム工事中止やハブ空港問題に象徴される国政と地方行政の拮抗・連携のあり方が重要な時局問題として浮上している。これらの問題は、地球温暖化対策における国家と国際政治、ローカルとグローバルの関係が切り離された問題ではないという

ことを意味している。つまり、両極は呼応したグローバルな関係にある。具体的にいえば地球温暖化ガス削減の危機的問題をとおして、ローカルにも新産業創造ビジョンや、新たな思想・文化再生の構想力、そしてその実践的覚悟が市民に求められているということであろう。このような次第で、平均経常収支比率が3年連続ワースト1である奈良県の汚名返上が、県政や市町村の保守的市政と財政構造に対する具体的な転換への挑戦をとおして実行に移されることがまず求められる。市民の命・暮らしが一番などといった代わり映えのしない表向きは無難な安心・安全マニフェストを掲げていても、新しい世紀が要請する危機的問題にはとても実質的に対応できず、次世代からしつぱ返しを受けることにもなりかねない。市民の暮らしを預かる政治家は目的と結果を取り違えてもらっては困る。

宗教都市といわれる天理市では、10月の選挙において現市長が3選を果たした。投票率は55%。去る国選においても、天理市は奈良県の市町村で最低の投票率を記録した。天理市民が如何に政治に無関心であるかの証しである。市はまず財政節約を唱えるなら、限界集落・農業再生と、横浜市庁が敏速に対応したようにLED照明採用やバイオマス活用のレベルから実践したらどうか。LEDは従来の照明機器に比べ50%、白球電球と比べると90%以上消費電力を削減する。有害な紫外線がほとんどでなく、虫が寄り付かない。日本の仏閣や宗教組織も、つぎつぎと環境にも合理的なLEDに急速に転換・対応し始めている。

微生物や樹木の残骸である石油などの化石燃料は、環境負荷がおおい上に埋蔵量に限界が見えている。風力は先進国デンマークが指摘し始めたように、低周波音が身体に悪影響を及ぼす。ソーラーは日照時と気候的な限界から我が国には非効率である。管理に危険を常にはらむ原子力に依存しない、新エネルギー先端科学技術の誕生と、その産業化が期待される所以である。